



拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

次回、当館では、20世紀後半の日本の色絵磁器を代表する作家である藤本能道<sup>よしむち</sup>（1919—1992）の展覧会を開催いたします。本展の出品作はすべて菊池コレクションで構成され、主となるのは1992年、藤本の死の直前に開催された新作展、「陶火窯焔（とうかようえん）」で発表された作品です。自身の生と死を見据えた作家が、最後に結実させた作品群は、当館創立者の菊池自身にとっても重要な意味を持ち、その年以來、公開を控えて愛蔵されてきました。展覧会はこれらの作品に、1970年代、1980年代の代表作を加え、藤本の色絵の真価をご覧いただく内容となっています。

つきましては展覧会の概略をご案内申し上げますので、本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

## 展覧会概要

- 展覧会名 「藤本能道展—命の残照のなかで」
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 東京都港区虎ノ門 4-1-35 ☎03-5733-5131
- 会期 2009年10月31日[土]～2010年4月18日[日]
- 休館日 毎週月曜日(但し11月23日、1月11日、3月22日は開館)、11月24日(火)、1月12日(火)、3月23日(火)、年末年始[12月28日(月)～1月1日(祝・金)]
- 開館時間 午前11時～午後6時(最終入館は午後5時30分まで)
- 主催 財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社(予定)
- 協賛 京葉ガス株式会社
- 観覧料 一般 1,300円 大学生 800円 小中高生 500円  
(障害者手帳をご提示の方、およびその介護者1名は無料となります。)
- 展示作品 色絵磁器作品約53点(※うち、ディナーセット「幻の食器」一式より100ピース余を含む。)
  - ・最後の新作展「陶火窯焔」(1992年)出品作
  - ・1970年代、1980年代の代表作
  - ・昭和天皇のためのディナーセット「幻の食器」一式(1976年作)
- 関連行事 会期中、学芸員によるギャラリートーク、西洋館見学会、講演会等を開催。※別紙参照。

## 展覧会の見どころ

### ◇ 充実の作品群

本展は、最後の新作展「陶火窯焰」(1992年)で発表された作品群に、1970年代、1980年代の代表作、および昭和天皇皇后行幸啓の際の晩餐用に作られたディナーセット「幻の食器」(1976年)を加え、すべて菊池コレクションで構成しています。藤本能道の色絵の軌跡を辿る、充実の内容です。

### ◇ ドラマティックな展示空間 ー作品に合わせ、展示室を一新しました

当館は2003年の開館にあたり、作品が最も映える展示空間を創出するため米国の展示デザイナー、リチャード・モリナロリ氏(Richard Molinaroli)に会場デザインを委嘱しました。以来、照明から展示台にいたるまで、陶芸作品に焦点を合わせたトータルな空間づくりを行っております。

このたび藤本能道展を開催するにあたり、再びモリナロリ氏を迎え、藤本作品に合わせて会場を一新いたしました。

新しい展示室では、絹と和紙が織りなす、光と影の空間と藤本作品が融合した、ドラマティックな展示をお楽しみいただけます。

### 藤本能道の軌跡

藤本能道(1919-1992)は、東京藝術大学で長く後進の指導にあたり(1962年に助教授着任、70年に教授着任)、1985年から90年まで同大学の学長をつとめました。1986年には「色絵磁器」の技術保持者として重要無形文化財(人間国宝)に認定されました。

藤本が陶芸をはじめたのは、1941年に東京美術学校工芸科図案部を卒業して文部省工芸技術講習所で加藤土師萌<sup>はじしめ</sup>に陶芸の手ほどきを受けてからのことです。その後、同美術学校および同講習所の教授に就任した富本憲吉に師事し、助手をつとめました。

終戦後、富本の辞任にともない藤本もまた講習所を辞め、京都、和歌山、鹿児島で陶磁器をデザインする仕事や窯業の技術指導にあたります。そして1956年、富本が教授をつとめる京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)の講師となつてからは、八木一夫率いる走泥社やモダンアート協会に参画するなど、陶芸のオブジェ化という最前線に身を置き、自身にとっての陶芸を模索しました。

1962年、藤本が43歳のとき、加藤土師萌の招きで東京藝術大学の助教授に迎えられます。加藤の尽力で創設された陶芸コースで後進の指導にあたるなか、1963年に富本が、68年には加藤が世を去り、二人の師を続けて失った藤本は、自分の使命であるかのように、色絵磁器の制作を本格的に再開させ、亡くなるまでの20年あまりの間に文様表現の新たな可能性を徹底して探求しました。

藤本の文様表現は、写生に立脚した写実的な描写を目指したものでした。日本画の没骨描法<sup>もっこつびようほう</sup>を採り入れ、上絵具の新色を開発し、新たな釉薬も考案する等、膨大な実験と科学技術に支えられた現代の表現でした。とりわけ釉彩<sup>ゆうびようさい</sup>を駆使する釉描加彩<sup>ゆうびようかさい</sup>は、藤本の色絵に欠かせない手法です。本焼の時点から釉彩で模様の大半を描き、上絵付けで最後の仕上げをすることにより、モチーフの周りに背景となる景色が出現し、磁胎から上絵付けまでが一体となった絵画的な色絵がつくりだされました。

展覧会は、最後の新作展「陶火窯焰<sup>とうかようえん</sup>」で発表された作品群に、1970年代、1980年代の代表作を加え、藤本の色絵の軌跡を辿ることの出来る、充実した内容で構成されます。また、このほかにも藤本の色絵の展開の起点となった1976年作の昭和天皇に捧げた「幻の食器」もご紹介いたします。

## 貸出画像



1. 霜白釉釉描色絵金銀彩炎と蛾図扁壺 1991  
高26.0 径24.8×16.0 「陶火窯焰」 出品作



2. 霜白釉釉描色絵金彩花と虫図六角大筥 1990  
高8.2×径32.0×36.6 「陶火窯焰」 出品作



3. 参考図版：ディナーセット  
「幻の食器」1976



4. 色絵木蓮と鶴八角筥 1976  
高 15.0×径 30.0



5. 釉描加彩樹陰宿鴉図四角筥 1987  
高 8.0 径 21.8

## 藤本能道略歴

- 1919 1月10日、東京/大久保に藤本有隣（大蔵省書記官）の次男として生まれる。
- 1922 3月、父死去。以後祖父（陸軍中将）を父がわりに育つ。
- 1941 東京美術学校工芸科図案部を卒業。文部省工芸技術講習所第一部に入学。
- 1942 講習所講師加藤土師萌に陶芸を学び始める。
- 1943 講習所を卒業。同所嘱託として勤務。
- 1944 東京美術学校教授兼同講習所教授となった富本憲吉に師事、その後助手となる。
- 1946 富本の教授辞任に従い、講習所助手を辞任。京都の松風研究所に田村耕一と共に輸出陶磁器のデザイナーとして入所。同所顧問となった富本から再び薫陶を受ける。
- 1947 富本を中心に結成された新匠美術工芸会に参加。
- 1957 走泥社同人として加わる。
- 1962 東京藝術大学助教授就任。
- 1963 制作方向の転換から、走泥社、モダンアート協会を脱退。

- 1966 「第十三回日本伝統工芸展」〈赤絵花壺〉出品（以後毎年出品）。日本工芸会正会員となる。
- 1970 東京藝術大学教授となる。
- 1973 東京都青梅市梅郷に築窯。この頃から安定した紫色を得るためのテストを重ねる（翌年6月に完成）。
- 1974 むね工芸で「陶板陶筥展—花と鳥」開催。最初の磁器だけの展覧会となる。「現代陶芸 寛土里」のオープニングとして「藤本能道作陶展」。
- 1976 茨城県植樹際の折の昭和天皇・皇后両陛下の晩餐用食器（「幻の食器」）完成。
- 1981 日本陶磁協会金賞受賞。紺綬褒賞受賞。
- 1985 『藤本能道作品集』（講談社）刊行。東京藝術大学学長に任命される（90年退任）。
- 1986 重要無形文化財「色絵磁器」保持者の認定を受ける。
- 1988 この頃、霜白釉、梅白釉を用い始める。
- 1991 勲二等旭日重光章を受章する。
- 1992 3月、陶火窯焰—藤本能道新作展開催（東京・菊池ゲストハウス）。5月16日、呼吸不全のため逝去。

## 本展覧会の内容に関するお問い合わせ先

菊池寛実記念 智美術館（学芸員：花里）

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先**

菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎、高田）

住所：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 財団法人 菊池美術財団

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

**掲載・画像貸出申込書**  
**返信先 FAX: 03-5733-5132**

●貴社基本情報

<b>会社名:</b>	
<b>担当部署:</b>	<b>担当者名:</b>
<b>住所:</b>	
<b>電話</b>	<b>ファックス:</b>
<b>E-MAIL:</b>	

●媒体情報

<b>新聞 雑誌</b>	<b>媒体名:</b>	
	<b>発行日:</b>	<b>発売日:</b>
<b>TV ラジオ</b>	<b>媒体名:</b>	
	<b>放送日:</b>	<b>放送時間:</b>
<b>ネット</b>	<b>URL:</b>	

●画像貸出リスト ※キャプションにはタイトルと制作年を入れてください。サイズの単位はcmです。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	① <small>そうはくゆうゆうびょういろえきんぎんさいほのおがずへんこ</small> 霜白釉釉描色絵金銀彩 炎と蛾図扁壺 1991 高26.0 径24.8×16.0
<input type="checkbox"/>	② <small>そうはくゆうゆうびょういろえきんさい おおぼこ</small> 霜白釉釉描色絵金彩花と虫図六角大筒 1990 高8.2×径32.0×36.6
<input type="checkbox"/>	③ 参考図版:ディナーセット「幻の食器」 1976
<input type="checkbox"/>	④ <small>ひよどりはっかくぼこ</small> 色絵木蓮と鶉八角筒 1976 高15.0×径30.0
<input type="checkbox"/>	⑤ <small>ゆうびょうかさいじゆいんしゆくあずしかくぼこ</small> 釉描加彩樹陰宿鶉図四角筒 1987 高 8.0 径 21.8

●読者プレゼント用チケット希望： 5組 10名様 10組 20名様